

## 祖父が教えてくれたこと

中 一

私の祖父は、補聴器を着けています。障害者手帳を持っています。

祖父は小さい頃、汚れた水が耳の中に入ってしまいました。よい治療を受けられなかったので、耳からうみが出るようになってしまいました。高校生の頃、手術をしましたが、ほとんど聞こえなくなりました。今は大きい声で話さないと聞こえませんし、テレビも大きな音で見えています。私は、祖父と話すときは、なるべく大きな声を出すようにしています。

祖父は、小さい頃から耳が聞こえないことをずっと気にして過ごしていました。仕事をやるようになって、仕事仲間と話していても、何を話しているか聞こえないことがあったそうです。何回も聞き直すことが失礼だと思い、適当な返事をする時、相手の人は不思議そうな顔をしました。そのとき、祖父は相手の人に悪いなと思い、悲しい気持ちになったそうです。やがて、耳が聞こえづ

らいことを言わずにいることが辛くなって、正直に話したら、仕事仲間が大きな声で話してくれるようになり助かったと、祖父がうれしそうに話してくれました。

祖父は、一人でできる読書が好きです。俳句を詠んだり、絵本を描いたりもします。余計な音が聞こえないので自分の中で想像をふくらませることができるそうです。「聞こえないことがかわいそう。」と決めつけているのは私なのかもしれません。祖父は自分自身を受け入れて、できないことを悲しむのではなく、できることを大切にしています。障害のある人の中には、すばらしい演奏をする全盲のピアニストの辻井伸行さんがいます。目の見える私よりもたくさんの曲を弾けます。私はピアノを弾くとき、楽譜を見て練習します。しかし、伸行さんは、強弱をつけてどうしてあんなに速く、間違えずに弾けるのか……。たくさんの練習をし、人よりも何倍も努力をしたからだと思います。

二〇二〇年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。パラリンピックでは、障害のある人ができるたくさんのスポーツがあります。テレビでそのスポーツの紹介をしていました

が、選手のみなさんは楽しそうに一生懸命頑張っていました。オリンピックもですが、パラリンピックも楽しみなのでたくさん応援しようと思います。私は眼鏡をかけています。完璧な人などいないと思います。祖父が、仕事の仲間から優しくされたように、不自由に思っている人がいたら、どうしたらよいか自分で考えて行動したいです。